子どもの未来を、
これからの教員を。

大阪教育大学
連合教職大学院

The United Graduate School of Professional Teacher Education

大阪教育大学　関西大学　近畿大学

大阪の教育力を結集した教育研究を推進します

大阪教育大学 学長　**栗林　澄夫**

本学は、1874年（明治7年）に教員伝習所として創設されて以来、我が国における教育の充実と文化の発展に貢献するとともに、とりわけ教育界における有為な人材の育成を通して、日本の主要な教員養成機関としての役割を果たしてきました。

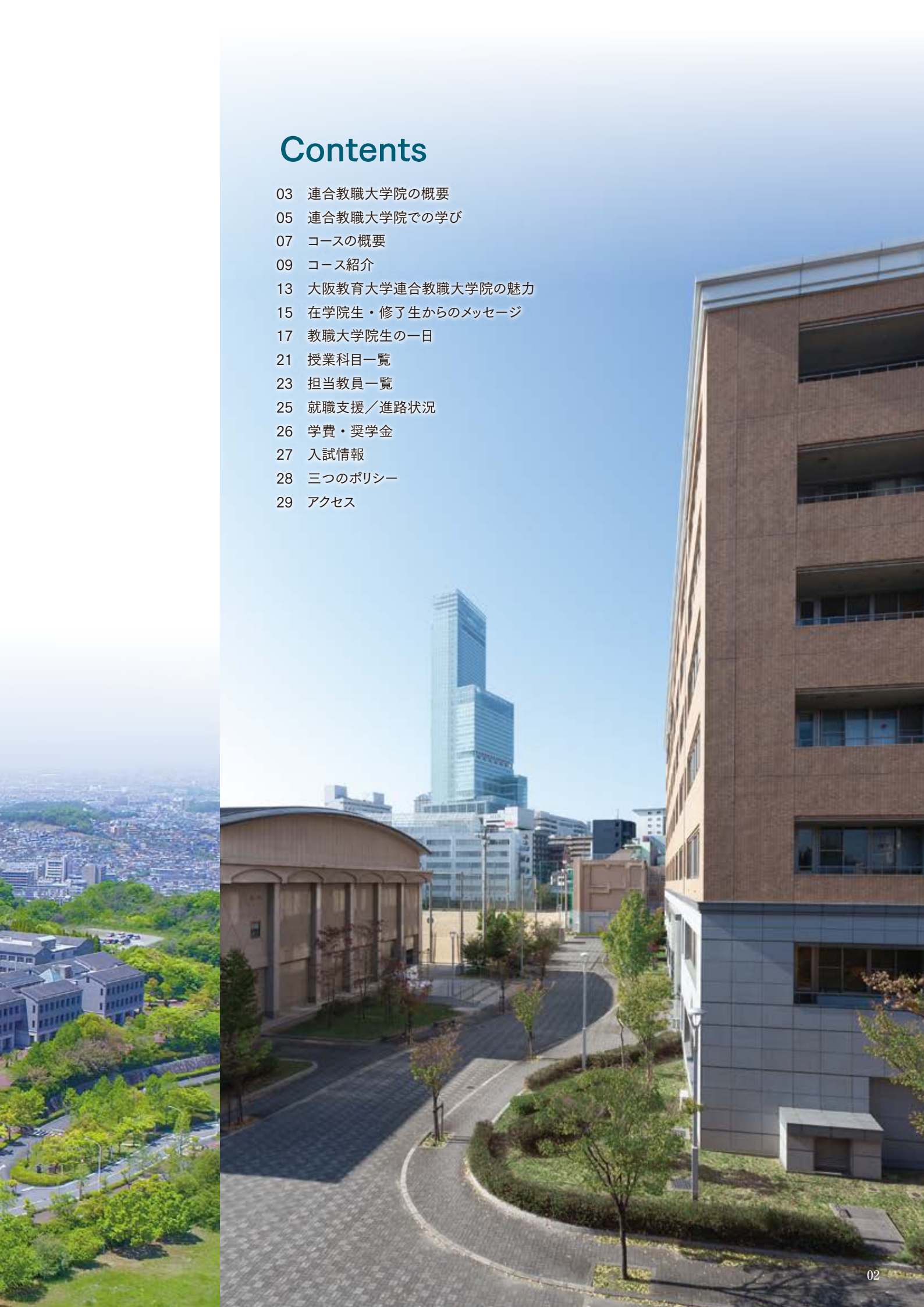
平成27年4月には、教員の資質能力を向上させ、次世代教員リーダーとしての学び続ける教員を養成するため、これまで本学と同様に大阪の教員養成に重要な役割を果たしてきた関西大学及び近畿大学と国立・私立の垣根を越えて連合し、教職大学院を設置しました。

知識基盤社会の到来と情報通信技術の急速な発展、社会・経済のグローバル化や少子高齢化の進展など、社会が急激に変化する中で、これからの教員には、多様化し続ける学校教育の課題に即応できる実践的知識や技能を身に付けていくことが一層求められています。そうした社会の要請に応えていくために、本学は平成31年4月より、大学院段階での教員養成機能を教育学研究科から連合教職実践研究科（連合教職大学院）に移行しました。1専攻4コースに拡充する連合教職大学院では、学校や地域等との連携のなかで、教育現場を活性化しつつ、自らも成長し続ける高度で柔軟な実践的能力を備えた教員を養成します。また、大阪府、大阪市、堺市、豊能地区の各教育委員会とも連携し、大阪の教育力を結集したオール大阪の体制で取り組み、地域の教育を牽引できる教員を輩出していきます。

複雑化する現代社会の中でも、「人が生まれ、育ち、社会的役割を果たす」ことは不変であり、学校教育の必要性がなくなることはありません。本学で学ぶことにより、学校教育における高度な実践的指導力を修得されることを願っています。

Contents

03　連合教職大学院の概要
05　連合教職大学院での学び
07　コースの概要
09　コース紹介
13　大阪教育大学連合教職大学院の魅力
15　在学院生・修了生からのメッセージ
17　教職大学院生の一日
21　授業科目一覧
23　担当教員一覧
25　就職支援／進路状況
26　学費・奨学金
27　入試情報
28　三つのポリシー
29　アクセス



教職大学院の目的

教職生活全体における高度かつ実践的な教員養成のための専門職大学院

近年、教員の養成ー採用ー研修等を通じて、教員が教職生活全体を通じて職能成長を実現する環境づくりが進められており、教職大学院は高度専門職業人養成に特化した大学院として、全国に設置されています。

学部段階の資質能力を基盤に深い教職性と実践的指導力を兼ね備える新人教員を養成

教員養成系大学あるいは一般大学の学部新卒者に、それぞれの特色を生かした資質能力にさらなる教職専門性と学校現場に即応できる実践的指導力を培い、学校の有力な一員となる新人教員を養成します。

学校の組織的課題・子どもの教育課題に応じた教育実践力や指導的役割を発揮する現職教員を養成

多様で複雑化する学校の組織的課題や子どもの教育課題を適切にとらえ、それらの課題解決をめざす確かな教育実践の展開に指導的役割を果たすことができる、学校の中核となる教員を養成します。

現代的な教育課題

- 新たな教育課程・授業方法の創出
- 学習指導要領の改訂に応じた教育活動の展開
- ICT を用いた指導法の充実
- 「チーム学校」の実現
- 子どもの育ちに関わる課題の解決（いじめ・不登校・児童虐待等）
- 個々の子どもに応じた指導・支援の充実　など

求められる教員の資質能力

- 自律的に学ぶ姿勢や意欲
- 価値を見つけ出す感性や探究心
- 知識や経験を有機的に結びつけて構造化する力
- 現代的な教育課題に対応する力
- 学校内外の組織や専門家とチームで連携・協働する力
- 各自治体の教員育成指標で求められる資質能力　など

養成する人材像

- 自ら学び続ける教員
- 教職・教科等の高度な専門的知識や技能を有する教員
- 学級経営・生徒指導・教育相談等を適切に実践できる教員
- チームで課題解決をめざす教員
- 地域の組織や専門家と連携・協働する教員
- 学校経営及び教育行政のリーダー

修了要件

専門職学位課程に2年以上在学し、所定の科目を46単位以上修得することを要件としています。

科目名	単位数	内　容
研究科共通科目	18	「教育課程の編成及び実施に関する領域」、「教科等の実践的な指導法に関する領域」、「生徒指導及び教育相談に関する領域」、「学級経営及び学校経営に関する領域」、「学校教育と教員の在り方に関する領域」の5領域の科目と、学校現場における実践的課題を解決する研究開発力養成のための科目として「教育研究方法演習」や、「学校安全と危機管理」などを設定しています。
学校実習科目	10	「基本学校実習Ⅰ・Ⅱ」と「発展課題実習Ⅰ・Ⅱ」（特別支援教育コースについては、「基本学校実習Ⅲ・Ⅳ[特別支援]」と「発展課題実習Ⅲ・Ⅳ[特別支援]」）の計4科目10単位を修得します。
コース科目	10～14	各コースが目標とする資質能力を育成するための科目を設定しています。詳細については、コース紹介（スクールリーダーシップコース：9ページ、援助ニーズ教育実践コース：10ページ、教育実践力コース：11ページ、特別支援教育コース：12ページ）をご参照ください。
課題研究科目	4	入学時から明確な意図と達成目標を持った研究テーマを設定して、課題解決に向けた実践的探究を進めます。
自由選択科目	0～4	研究科共通科目・コース科目等から、各コースで定める履修基準に応じて単位を修得します。

学位

「教職修士（専門職）」の学位が授与されます。

取得できる免許状

取得しようとする免許状の一種免許状を有していることが必要です。

- 幼稚園教諭専修免許状
- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状
  （国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、宗教）
- 高等学校教諭専修免許状
  （国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、宗教）
- 養護教諭専修免許状
- 特別支援教諭専修免許状（※特別支援教育コース所属学生に限る）
  （視覚障害者・聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者・病弱者）

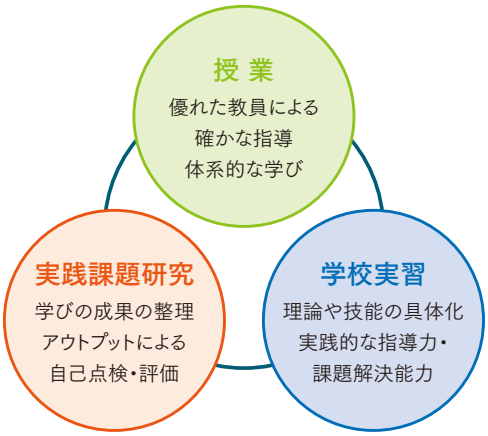
大学院キャンパスと学校現場をフィールドとした学び

理論と実践の往還・融合

自らが設定した課題の解決に向け、授業における理論的な学びと、2年間を通じて実施する学校実習における実践的な学びとの往還を繰り返し、実践課題研究に取り組むことで、教職に求められる実践的指導力を高めていくよう、カリキュラムを構築しています。

指導体制

院生には、主指導教員・副指導教員が割り当てられ、研究者教員と実務家教員、教職科目担当教員と教科専門教員といった、複数の視点で指導できる体制を用意しています。



[理論と実践の往還・融合]

授業

教職に求められる実践的指導力を向上させるカリキュラム

大阪府・大阪市・堺市の各教育委員会が掲げる教員育成指標と対応させたディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を、各コースで設定しています。つまり、学校現場で求められる理論や実践動向を科目の中で体系的に学び、学校実習等でそれを実践しながら、実践的指導力を高めていける環境があるのです。また、全ての院生が共通に履修する研究科共通科目は、研究者教員と実務家教員のタッグによるティームティーチングにより授業を展開し、理論と実践の往還の一助となります。

すぐれた教員による確かな指導

150名を超える大学教員が全学的な協力体制のもと、大学院生の指導・支援を行います。研究者教員は、それぞれの専門分野の学術研究に関して数多くの業績を有し、中には、学校現場や教育行政との共同プロジェクト等の豊富な経験を有している教員もいます。また、学校や教育行政に長く勤務し、教育課題の解決に尽力してきた実務家教員は、大学院生にとってのよき教職モデルです。これらのすぐれた教員による確かな指導によって、実践力や探究力等を高めていきます。

学校実習

教職大学院における実習は、院生自身が作成した学修計画書に基づき、研究テーマや目的、内容・方法を明確に計画して実施する実習であり、大学院と実習校の往還、理論と実践の往還・融合を実感すると同時に、実践的な課題解決能力を育成することをめざしています。

学部卒院生にとっては、学部段階での教育実習と違って、授業の実施だけでなく、学級経営、生徒指導、教育課程編成をはじめ、学校の教育活動全体について総合的に体験し、考察する機会となっています。また、免許状を持った者が、教員の指導の下、一定期間計画的・継続的に学校教育活動に参画するものであり、当該学校における教育活動に寄与することも期待できます。

時期		科目名	時間数	単位数	実習先
1年次	前期	基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅲ（特別支援）	60時間以上	2単位	現職教員院生：原則として勤務する学校や教育委員会等 学部卒院生：入学時に所有する免許種に対応する実習校 ※現職教員院生（勤務経験3年以上）においては、定められた手続きにより履修免除を願い出、認められた場合は、1年次前期に行われる「基本学校実習Ⅰ」の履修を免除されます。
	後期	基本学校実習Ⅱ 基本学校実習Ⅳ（特別支援）	60時間以上	2単位	
2年次	前期	発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅲ（特別支援）	90時間以上	3単位	
	後期	発展課題実習Ⅱ 発展課題実習Ⅳ（特別支援）	90時間以上	3単位	

実践課題研究

2年次で取り組む実践課題研究では、まず1年次での学びの成果を整理することを通じて、実践的な研究課題に対する問題意識とそれに対する取組みをどのように発展させてきたかを省察していきます。そして、それをさらに追究し、どのようなアウトプット（実践課題研究報告書）として仕上げるかに関して、計画を策定し、遂行していきます。

その過程において課題解決のプロセスを R-PDCA サイクルに基づいて自己点検・評価するとともに、学校や教育委員会のスタッフ等とのコミュニケーションの中で相対化し、それらを通じて、自らの実践的な研究課題の解決を学校や地域が抱える教育課題の解決とつなぐ意識を強めていきます。

実践課題研究のテーマ例	
現職教員院生	校長に求められる対教職員コミュニケーション・スキル ―高等学校でのA校長の実践を通じて―
	学級担任支援における特別支援教育コーディネーターの新たな役割
	組織的な校内研修体制づくりの実践的研究 ―学び合い、高め合う教員集団づくりに向けて―
学部卒院生	空間認識力の向上をめざした動的幾何学ソフトウェアの活用
	話す・書くスキルの向上をめざした小学校国語科授業実践 ―課題分析を活用して―
	高等学校地理歴史科における記述力向上に関する実践的研究

リフレクション・ミーティング

リフレクション（reflection）の意味は、熟考、内省、省察、再考、回想などです。すなわちリフレクション・ミーティング（RM）とは、過去と現在を見つめ、未来の行動や指針をつくる活動（ふりかえり）のことです。RMには、個別RM、コースRMがあります。特に学校実習科目や課題研究科目では、指導教員と個別に、あるいはコースの院生と教員全体で確認するためのリフレクション・ミーティングの機会を大切にしています。また、3月には、キャンパスや所属を越えた教職大学院での学び・成果の発信・共有を目的として、実践研究成果報告会を行います。

名 称	実施時期	実施内容
個別RM	随時	・大学院主指導教員が担当院生の実習校を訪問し、実習の進捗状況について確認する ・実習テーマによっては、実習校指導責任者や関係の教員とともに振り返りを行う場合もある
コースRM	8月及び2月	・実習課題に応じて、コース内で他の院生との相互交流を行い、それぞれの経験や課題を共有化する
実践研究成果報告会	3月	・各コースの代表者による、2年間の実践研究の成果報告を行う

授業：学習指導の実践的展開

コースRMの様子

Voice 現職教員院生の実習

養護教諭として働き6年が経ち、子どもたちのためにできることは何か、スキルアップをめざしたい、と思い教職大学院に入学しました。大学院で学んだことは、次の日に子どもたちに必要な援助や子どもたちの気持ちを考えることにつながっており、現場の実践と理論で学ぶことが有意義であると感じます。

学校実習では、子どもが学校生活を安心して過ごすことにつながるようにと思いながら、管理職・同僚の先生方のご理解とご協力をいただき取り組んでいます。保健室対応を客観的にふりかえったり、時間を決めて教室の子どもの様子を見に行ったり、担任の先生と話をする時間を「学校実習」として意識して進めています。今まではただ養護教諭の職務をこなすだけでしたが、学校実習も組み込んで働くことで、より学校現場の課題や自分自身の課題と向き合い、またどのようによりよい方向にしていくのかを考えることにつながっていると感じています。

援助ニーズ教育実践コース2回生
現職教員院生
吉兼　千尋さん

天王寺キャンパス

昼夜間開講

平日の夜間や土曜、夏季休業期間等に授業を履修し、
平日の日中は実習校で（現職教員は在籍校で働きながら）
実践研究を行える昼夜間開講システム

スクールリーダーシップコース

対　　象	現職教員等（勤務経験3年以上）（※）
募集人員（目安）	30 名
養成する人材像	●保護者、地域住民等と協働し、学校及び地域の新しい教育課題の解決に向けてリーダーシップを発揮できる教員 ●教員集団をリードし、学校経営における中心的役割を担うことのできる教員

援助ニーズ教育実践コース

対　　象	現職教員・学部卒学生等
募集人員（目安）	30 名
養成する人材像	●多様な援助ニーズに対応するための高度な教育的手法を身に付けた教員 ●「チーム学校」の考えに基づき、学校園内・外の関係者と協働して教育実践を展開できる教員

●天王寺キャンパス開講の2コースは、次のような開講です。

6 時 限	7 時 限
18:00 ～ 19:30	19:40 ～ 21:10

●平日 6 ～ 7 時限
●土曜
●集中講義（土曜、夏季休業期間の組み合わせなど）

※「現職教員等」とは、国公私立の幼稚園（幼保連携型・幼稚園型認定こども園を含む。）・小学校・中学校・高等学校・義務教育学校・中等教育学校・特別支援学校で現在勤務している常勤の方（任用の期限を付さない常勤講師を含む。）又は都道府県もしくは市区町村の教育委員会及び国公立の教育センター等において指導主事として現在勤務している方で、令和3年3月31日までに上記「対象」欄の年数の経験を有する方とします。ただし、令和3年3月31日以前に退職する予定の方を除きます。

柏原キャンパス

昼間開講

キャンパスで授業を履修する日と
実習校で学校実習を行う日を使いわけながら
着実に力をつける昼間開講システム

教育実践力コース

対　　象	学部卒学生・現職教員（大学院修学休学制度等の利用）
募集人員（目安）	80 名
養成する人材像	●今日的な教育課題に対応した授業開発に先端的かつ継続的に取り組むことのできる教員 ●教科領域の確実な指導力とカリキュラム・マネジメント力をもつ教員

特別支援教育コース

対　　象	学部卒学生・現職教員（大学院修学休学制度等の利用）
募集人員（目安）	10 名
養成する人材像	●特別な支援を必要とする子ども一人ひとりのニーズに対応した適切な教育支援を行える高度な能力を身に付けた教員 ●特別支援教育コーディネーターとしての役割を担うことができる教員

●柏原キャンパス開講の2コースは、主に平日1～5時限開講です。

1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
8:50 ～ 10:20	10:35 ～ 12:05	12:55 ～ 14:25	14:40 ～ 16:10	16:25 ～ 17:55

協働力とリーダーシップを育てる

スクールリーダーシップコース

養成する人材像

- 保護者、地域住民等と協働し、学校及び地域の新しい教育課題の解決に向けてリーダーシップを発揮できる教員
- 教員集団をリードし、学校経営における中心的役割を担うことのできる教員

特　徴

コース共通科目では、事例検討を多く用い、スクールリーダーとしての基本的な考え方を獲得します。
プログラム科目には、5つのプログラムが用意されており、各自のキャリアや所属校の課題に即し選択することが可能です。各プログラムは、概論、事例研究、実践の3段階で構成され、それらの履修を通じ専門的かつ多元的に学ぶことができます。

履修モデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	教育課程編成の今日的課題 生徒指導と教育相談の実践的課題 学校経営と学級経営の理論と実践						カリキュラムマネジメントの理論と実践 学習指導の実践的展開 教育研究方法演習					
	スクールリーダーシップの理論と実践						スクールリーダーのマネジメント					
							教科内容開発研究演習（英語）					
	基本学校実習Ⅰ				コースRM		基本学校実習Ⅱ				コースRM	
2年次	人権教育の課題と実践						教師力と学校力 学校安全と危機管理					
	エビデンスベースの学校改革											
	学校組織開発						チーム学校の実践的展開					全体報告会
	グローバルリテラシーの育成											
	発展課題実習Ⅰ				コースRM		発展課題実習Ⅱ				コースRM	
	実践課題研究Ⅰ						実践課題研究Ⅱ					

コース代表のコメント

スクールリーダーシップコースでは、それぞれの職場や学校において、自ら考え、職場の皆の意見を引き出しながら意思決定を行い、行動しようとする教員が共に学んでいます。大学院で得る科学的知見や実証的研究方法は、学校教育に貢献するために在学中に使うことが大切です。そのためには、「本物の実践や調査、問い、整理と分析、原因と結果の関連を複合的に捉える思考、転移するための議論と発信」を通した学び方が必要です。

私の専門は、外国語の言語習得理論と、グローバル視野における21世紀型教員スキル育成です。専門分野ごとに実証されてきた普遍的理論があり、一方で、変革する社会の動向と学校教育課題を的確に捉え、新しい価値観やビジョンを提案して行動を変えようするアプローチがあり、これは変革型リーダーシップと言われます。自校での課題を中心に据え、実証を経た信念や価値観を培うことを、教員のキャリアに位置付けてみませんか。

柏木 賀津子 教授

多様な子どもたちのニーズへ協働的にアプローチする

援助ニーズ教育実践コース

養成する人材像

- 多様な援助ニーズに対応するための高度な教育的手法を身に付けた教員
- 「チーム学校」の考えに基づき、学校園内・外の関係者と協働して教育実践を展開できる教員

特　徴

教育学や心理学、福祉・医療、特別支援教育、養護教育、就学前教育分野にまたがるクロスカリキュラムを導入し、子どもの複合的で多様な援助ニーズのアセスメントと、それに基づいた教育実践の方法を修得させることをねらいとします。
プログラム科目は4つに分かれ、各分野からの学校園現場における協働的援助の実践力を学ぶことができます。

履修モデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	教育課程編成の今日的課題 生徒指導と教育相談の実践的課題 学校経営と学級経営の理論と実践 子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践						カリキュラムマネジメントの理論と実践 学習指導の実践的展開 教育研究方法演習					
	協働的援助の理論と実践 児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ						社会環境と子どもの心身の理解					
							いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ 予防的な関わりと協働的援助					
	基本学校実習Ⅰ				コースRM		基本学校実習Ⅱ				コースRM	
2年次							教師力と学校力 学校安全と危機管理					
	学校危機における援助ニーズ											全体報告会
	メンタルヘルス課題の理解 共生社会をめざした協働的援助											
	発展課題実習Ⅰ				コースRM		発展課題実習Ⅱ				コースRM	
	実践課題研究Ⅰ						実践課題研究Ⅱ					

コース代表のコメント

柿　慶子　特任教授

援助ニーズ教育実践コースは、一人ひとりの子どものニーズを汲み取り、それに応えるための教育実践を展開するコースです。昨今、子どものニーズは多様化し、子どもの成長を支え促すためには、教員が自らの専門性を高めると同時に、学校園内外の多様な専門性を持つ職員と連携・協働することが求められています。

本コースでは、そのプログラムの特徴から、幼稚園・こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭や養護教諭の免許を有する院生が、様々な立場や視点を持ちながら教育課題の解決に向けて学んでいます。授業では「援助ニーズに応える教育実践」について多彩なアプローチから学びを深め、授業や学校における諸課題の解決に向けたディスカッションの中では、お互いの立場や視点の違いからの気づきを実践における連携・協働に生かしています。

新しいコンセプトの教職大学院で、実践を振り返り、様々な学問領域の知見を融合させ、「援助ニーズ教育実践とは何か」という重要なテーマを一緒に考えてみませんか?

教科横断的な視野を持った高度な教科指導力を育成

教育実践力コース

養成する人材像

- 今日的な教育課題に対応した授業開発に先端的かつ継続的に取り組むことのできる教員
- 教科領域の確実な指導力とカリキュラム・マネジメント力をもつ教員

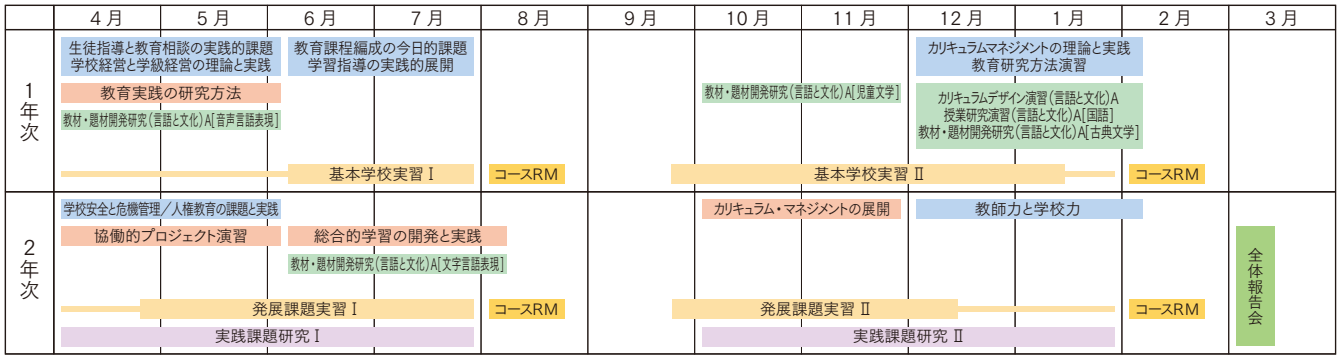
特　徴

教科領域の違いを超えた教科横断的・総合的な学びをめざします。加えて選択科目では、教科横断的かつ各校種にまたがる長期的視点でカリキュラムを構想・実践する能力（A群）、授業を研究的に分析・省察し、授業改善につなげる能力（B群）、教科領域の先端的な教材・題材開発と実践的な展開の能力（C群）の3つの能力を伸ばしていくことを目的としています。
ICTを含むEラーニングや国際教育比較交流・総合的な学習といった今日的課題に対応する科目や、理系教員をめざす院生に向けた高度理系教育科目も開講します。

教育実践力コースでは、6つの領域に分かれて学校実習科目や実践課題研究の指導を受けます。各領域において対応する主な教科等は次のとおりです。

領　域	対応する教科等
教育・心理	——
言語と文化	国語、外国語（英語）
個人と社会	家庭、社会・地歴・公民、道徳
科学と数学	理科、技術、算数・数学
身体と表現	音楽、図画工作・美術、書道、体育・保健体育
広領域	教科横断的なテーマや、総合的な学習など

履修モデル



コース代表のコメント

教育実践力コースでは、学校教育における授業教科を軸にして、学校教育現場の実情に応じた教材研究、指導法の開発、授業改善の様々な方途の案出を大切にしています。私自身も院生の学校実習を通して、これまでの教育学研究とは異なる研究的実践の視野を獲得して参りました。例えば、学校実習期間中、院生はより長い時間、児童・生徒との学校生活に寄り添います。そうすると、個々の児童・生徒にきめ細かに目を向けた授業実践が随所に必要になるし、翻ってそれが授業の中で生きてきます。一般性や普遍性を求めるだけでなく、個別性や多様性を視野に入れた授業の開発です。

言うまでもなく、このことを支えるのは、専門的知見の学習であり、教科の理論研究でもあり、それらと授業実践を結び合わせる発想法や省察力を、この教育実践力コースで修得していただきたいと思います。

土山 和久 教授

障がいのある子ども一人ひとりに対応した支援を

特別支援教育コース

養成する人材像

- 特別な支援を必要とする子ども一人ひとりのニーズに対応した適切な教育支援を行える高度な能力を身に付けた教員
- 特別支援教育コーディネーターとしての役割を担うことができる教員

特　徴

特別支援の理論と実際について、教育学、心理学、臨床学などの専門分野の観点から多角的に学びます。
障がいの多様化・重度化・重複化、通常の学級における発達障がいのある子どもへの対応、特別支援教育コーディネーターの機能向上など、特別支援教育をめぐる現代的課題に即応できる実践力を身に付けることを目的としています。

履修モデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	生徒指導と教育相談の実践的課題 学校経営と学級経営の理論と実践 特別ニーズ教育の理論と実践 特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援 特別支援教育の現代的課題		教育課程編成の今日的課題 学習指導の実践的展開 基本学校実習Ⅲ（特別支援）		コースRM		特別なニーズのある子どもの生理と病理 基本学校実習Ⅳ（特別支援）		カリキュラムマネジメントの理論と実践 教育研究方法演習 特別支援教育の教育課程と授業論 インクルーシブ教育の理論と実際		コースRM	
2年次	学校安全と危機管理 発達障がいのある子どもの理解と支援 発展課題実習Ⅲ（特別支援） 実践課題研究Ⅰ				コースRM		発展課題実習Ⅳ（特別支援） 実践課題研究Ⅱ		教師力と学校力 特別なニーズのある子どもの臨床		コースRM	全体報告会

コース代表のコメント

いま特別支援教育の現場では様々なことが求められています。特別支援教育は英語で "Special Needs Education"と表現されるように、障害に起因するニーズのほかにも子どもに生じている特別なニーズ、たとえば虐待や貧困などによるニーズにも対応し、一人ひとりの子どもにとって学びやすい環境や支援を提供する必要があります。また、近年の傾向であるインクルーシブ教育の推進、特別支援教育コーディネーターの役割重視、授業のユニバーサルデザイン化などからもわかるように、特別支援教育に携わる教員は、特別支援学校あるいは特別支援学級における教育実践を深めると同時に、通常の学校（通常の学級）における教育への視点を養う必要性もあります。

特別支援教育コースでは、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、発達障害といった各領域の高い専門性をもつ教員と共に、子どもの多様なニーズを多角的な視点で捉え、適切かつ幅広い教育支援に必要な深い洞察力と実践力を講義や学校実習を通して培うことをめざします。

西山　健　教授

院生共通

学校心理士の資格認定審査に申請が可能

2020年度より、学校心理士の申請類型に、教職大学院類型が加わり、教職大学院修了者及び修了見込み者の方も学校心理士の資格認定審査に申請することが可能となりました。詳細は、学校心理士認定運営機構のホームページをご確認ください。

仲間と出会える

連合教職大学院には、指導主事や現職教員もいれば、学部卒院生もいます。学校間、校種間、教科間、更には世代を超えた院生同士の多種多様なつながりが生まれます。そのつながりは、校種間連携や教科横断的な視野を広げるだけにとどまらず、在学時はもちろん、修了後においても、お互いを支え合い、学び続ける仲間となります。

課題解決能力が身につく

理論と実践の往還・融合を通して、調査・協働・俯瞰的な視点・分析等、課題を解決する力が身につきます。

大阪教育大学連合

現職教員院生

自らの経験に確かな理論を

これまでの教職経験で培った実践的知見と教職大学院での先進的な教育研究に基づく理論的な知見とを統合させることで、理論に裏付けられた教育実践力を身につけることができます。

免許状更新講習の猶予（延長）措置

専修免許状取得のため教職大学院に在学中に、有効期間満了（又は修了確認期限）を迎える場合は、免許管理者（教育委員会）に申請することにより、有効期間（又は修了確認期限）を延長することができます。また、教職大学院を修了し、専修免許状が授与されると、有効期間満了（又は修了確認期限）を10年間、延長できます。

勤務しながら学べる

研究科共通科目（必修）は、すべて7限（19：40～21：10）に開講します。また、修学場所である天王寺キャンパスは交通アクセスがよいため、大阪府外から通っている大学院生が多数います。なお、2年で修了するのが困難な方を対象とした長期履修学生制度を活用し、3年かけて学ぶことが可能です。

在籍校等が抱える課題解決に挑む

在籍校等の教育課題等を踏まえた実践課題研究テーマを設定し、教職大学院での2年間の学びの中で、同僚との協働や、大学教員が在籍校等を訪問しての助言・指導等、学校・院生・大学教員のチームで、在籍校等が抱える教育課題の解決に挑みます。

実務経験により学校実習科目が一部免除

勤務経験 3年以上の現職教員院生は、定められた手続きにより履修免除を願い出て、認められた場合は、1年次前期に行われる「基本学校実習I」の履修が免除されます。

専修免許状を取得できる

連合教職大学院では、幼・小・中・高・養護・特別支援（視・聴・知・肢・病）の専修免許状を取得することができます。取得のためには、①取得しようとする専修免許状にかかる一種免許状を有していること、②取得しようとする免許状の課程認定を受けた授業科目を24単位以上修得すること、の2つの条件を満たす必要があります。

教職修士（専門職）の学位を取得できる

連合教職大学院に2年以上在籍（長期履修制度を利用した場合は3年）し、所定の科目を46単位以上修得のうえ修了することで、教職修士（専門職）の学位を取得することができます。

2年間で300時間以上の学校実習

学校現場での体系的かつ長期の実践経験を、子ども達と関わりながら積み上げることができます。学部卒院生は、学部段階での教育実習とは異なり、授業の実施だけでなく、学級経営、生徒指導、教育課程編成をはじめ、学校の教育活動全体について総合的に体験し、考察することができます。現職教員院生は、授業で学んだ理論を在籍校における組織的かつ長期的な実習を通して検証することが可能です。

教職大学院の魅力

学部卒院生

教職に関してより深く勉強できる

連合教職大学院では、その名の通り、教職に関する科目を多数用意しています。学部卒（特に教育学部でない学部）の方は、深い教職専門性を培うことができます。

教員採用試験が一部免除に

自治体によっては、教職大学院生に対して教員採用試験における試験の一部免除や、教職大学院枠としての学内推薦の制度を利用することができます。

教員採用試験の支援

試験対策の一環として、筆記試験だけでなく、集団討論・面接、模擬授業・場面指導等の対策講座を実施しています。

名簿搭載期間の延長措置が可能

自治体によっては、入学前及び在学中に教員採用試験に合格した場合、申請手続きを行うことで、名簿登載期間の延長措置が可能です。

※名簿登載期間の延長がない自治体でも、採用試験の一部免除が可能な場合があります。

1年を通じて学校現場と関われる

学校実習の一環として、児童生徒等や教職員と交流し、実習先の様々な教育活動及びその補助に携わるもので、子どもの変化や成長の様子を長期的に捉えることや、組織の同僚との協調性を身に付けること等をねらいとしています。学部での教育実習では体験できない学びと言えます。

仲間と切磋琢磨できる

グループでの学習や討論、実習の振り返りに利用できる協働学習室を備え、様々な学習の形に対応しています。

私は、以前に研修で受講した本学教職大学院の先生のもと、高い専門性を身に付けたいと思い、本教職大学院への進学を決めました。

「チーム学校」が謳われる昨今、その中心的役割を担う優れたリーダーシップを発揮する教員を養成するのがスクールリーダーシップコースです。本教職大学院は、これまで私たち現職教員が培ってきた経験に裏打ちされた実践的知見と、大学院で学ぶ教育研究に基づいた理論的知見を往還・融合することで、ハイレベルな実践力を身に付けることができるところです。今まで積み重ねてきた実践を理論に基づいて振り返る機会が設けられたことは、自分のキャリアの中で非常に重要だったと思います。また、リーダーシップに関する科目以外にも、5分野の専門的なプログラム科目から選択でき、自身の専門性を高めることができます。

職場との両立には、誰しもが不安を感じると思いますが、履修しやすい時間割調整が成され、計画的に単位が取得できます。そして、主体的・対話的で深い学びを得られる授業は、新学習指導要領が目指す授業改善の模範となります。あっという間の授業時間で、授業後は自主的にコース生同士で学びを深めるなど、共に学ぶ仲間が高い志を持つことが、大変刺激になります。忙しくてどうしようもない時期は、みんなで情報共有し、共に支え合って乗り越えるなど、素晴らしいメンバーと環境のもと、とても楽しく有意義に学ぶことができます。また、努力を認めてくださる先生方のもと、学会発表等の新たな機会をいただくなど、新しい世界に視野が広がりました。

働きながら学ぶことは、決して容易なことではありませんが、この2年間の学びの先に待っている新たな自分に出会うため、私は挑戦していきたいです。皆さんも、日々の忙しさで諦めてしまっていた気持ちから一歩踏み出してみませんか。

スクールリーダーシップコース２回生
現職教員院生

斉田　俊平 さん

在学院生・修了生

私は教職大学院2期生として修了しました。在学中は主指導教員である家近教授のもと、「工業高校における教員間の連携を促進する取り組み―チーム援助を活用して―」というテーマで実践課題研究報告書を提出しました。その後、勤務校の先生方と2年間、生徒のために、学校のためにと協力し実践した内容を、論文としてまとめてみては、という家近教授のご助言もあり、「日本学校心理士会年報」に実践論文として投稿することができました。在学中はもちろん、修了後も熱心にそして丁寧に家近教授にご指導していただき、本当に感謝しています。今後も私たちと同じように学校現場で日々奮闘し模索する先生方に実践研究として還元し、貢献することにつながれば、と考えています。

またチーム・ティーチングで教員としての立場で院生への講義に参加する機会もいただき、実践家として事例を通して行う講義や、教科書が存在しない大学院での講義の難しさ、院生から意見を引き出すことの奥深さも経験できました。

教職大学院での学びは、現在、勤務校において学級担任や保護者、特別支援コーディネーター、学年主任の教員、部活動顧問などが「チーム」で生徒を援助する取り組みに繋がっています。学級担任ひとりによる生徒の援助ではなく、学校にある「援助資源」を探し、つなげようと意識的に学校を見るようになりました。学校には学級担任はもちろん各教科の担当教員や養護教諭、クラスや部活の友人といった「人的資源」や運動場や教室といった「物的資源」が多く存在し、その「援助資源」を探し、つなげていこうとすることも、教職大学院で「学校心理学」に出会い学んだおかげです。

2年間の勤務校における実践研究を通して、教員間の協働を促進するとことや、学級担任としてできることを探し、学校内の教員や組織をつなげることができました。学校の他の教員も生徒への見方が変わり、みんなで話し合いながら「チーム」で生徒を援助しようとする教員が増えたと感じています。

平成29年度修了
大阪市立泉尾第二工業高等学校

阿津坂　理沙 さん

私が学部生の時に学習指導要領の改訂が行われ、思考力・判断力・表現力等の育成という言葉が注目されはじめました。しかし、当時の私にはそれらの力をどのように育成することができるのか想像できませんでした。学部での学びでは、例えば、主体的・対話的で深い学びのための方法を学んでも、本当にそれで資質・能力を育成することをできるのか、また、主体的・対話的で深い学びを具体的にどう展開してよいかが明確になりませんでした。そこで、自分自身で学び、さらに実践することで、これらの方法を模索していきたいと思い、本教職大学院に進学しました。

入学後は、毎日がとても充実しています。専用の協働学習室という場所もあり、出身大学や免許校種、年齢の異なる院生同士が気軽に研究について話をすることもできます。さらには教員の数も多いので自分の指導教員からだけではなく、他の教員からも助言を聞くことが可能です。

学ぶための環境は整っているので、これからの入学を希望するみなさんは、問題意識をしっかり持って入学をしてほしいです。

教育実践力コース２回生
学部卒院生

大槻　一貴 さん

私が所属する援助ニーズ教育実践コースでは、現職教員院生と学部卒院生が共に学び合っています。現在の多様化した教育課題の解決に向けて、現職の経験豊富な知識と、学部卒院生のフレッシュな意見が新しい視点を切り拓き、深い学び合いに繋がっています。

私にとってこの環境は、教員採用試験を合格する上でとても役立ちました。学部時代とは比較にならないほどの深い学びや、並行して行われる学校実習での長期的な実践により、教採での個人面接や集団面接の質疑応答において、様々な視点や根拠を基に自信をもって答えることができました。自治体によっては教職大学院在学1年目から受験可能なので、修了まで採用を待ってもらえる猶予期間を頂くことができます。

学部卒院生は学校現場での経験がない為、不安に感じることがあるかもしれませんが、現職の先生は優しく接してくれますし、教職大学院での学びがこれからの教員人生の大きな糧になると感じています。

援助ニーズ教育実践コース２回生
学部卒院生

本多　三四郎 さん

からのメッセージ

府立高校から人事交流で大阪教育大学附属高校に赴任している間に、教職大学院で学ばせていただく機会を得ました。附属高校の生徒たちに大きな可能性を感じていた私は、文化祭や体育祭などの行事を見て、“この生徒たちなら「自主自立」してもっとできる！”が、“どのように指導したらよいのか？”との思いがくすぶっていました。一般的に「生徒指導」といえば、問題の解決や予防に意識が偏りがちです。教職大学院では、学校の特徴によって生徒指導の在り方が大きく変わることを学びました。そして、生徒の主体性を高めるような「積極的な生徒指導」が附属高校には必要であり、現状を改善するための取り組みを実践課題研究のテーマとしました。①「育てたい生徒像」を明文化して共有する。②具体的な指導方法（好事例）を収集する。③「行事運営マニュアル」を作成して活用する。などの実践で、教員の「生徒指導」に対する意識が変化し、計画的で組織的な指導を進めることができた結果、行事は磨かれ、新しい取り組みも生まれ、生徒の「自主自立」を高く評価してもらえる場面が増えてきました。

現在は、府立高校に戻り、日々の授業においては、“目的に向かうための導入で生徒を引き付ける（スイッチを入れる！）ような教材の研究”に時間を費やし、学力向上に努めています。また、生徒指導においては、“学校の特徴を捉え、前年度を踏襲するだけでなく総括を基に具体的に改善していく取り組み”に努め、基本的な生活習慣の確立（挨拶の増加や遅刻の激減など）に成果を出しています。今後も、教職大学院での学びを活かし、ミドルリーダーとしての立場を自覚し、探究心を高めるような授業や計画的で組織的な生徒指導をリードできるように心がけていきたいです。学び続ける……ことは難しいですが、日々の教育活動の中で目の前のことで精一杯になりそうな時、教職大学院で共に学んだ“学友”たちの存在は、進むべき方向を見失わないでいるためのコンパス（財産）となっています。

平成28年度修了
大阪府立枚岡樟風高等学校
（令和2年度より筑波大学附属高等学校）

松本　英樹 さん

教職大学院生の一日

スクールリーダーシップコース

	8時	9時	10時	11時
平日のある1日	勤務 8:30〜17:00			

教職大学院の授業で学んだことを勤務校の授業で実践し、その後に振り返りをすることによって、さらに理解度を深めます。毎回の教職大学院での学びをすぐに学校現場で実践することができるため、常に学校現場のことを考えながら授業を受け、明日は何を実践しようかと、わくわくしながら授業を受けています。

学修課題

実生活の問題解決を軸にした各学年および教科等に関連づけたプログラミング教育

スクールリーダーシップコース 2回生

金川 弘希さんの場合

現職教員院生(大阪市立苗代小学校勤務)

時間割例

※令和2年度入学生の場合

授業時間	
6限	18:00〜19:30
7限	19:40〜21:10

1回生

前期

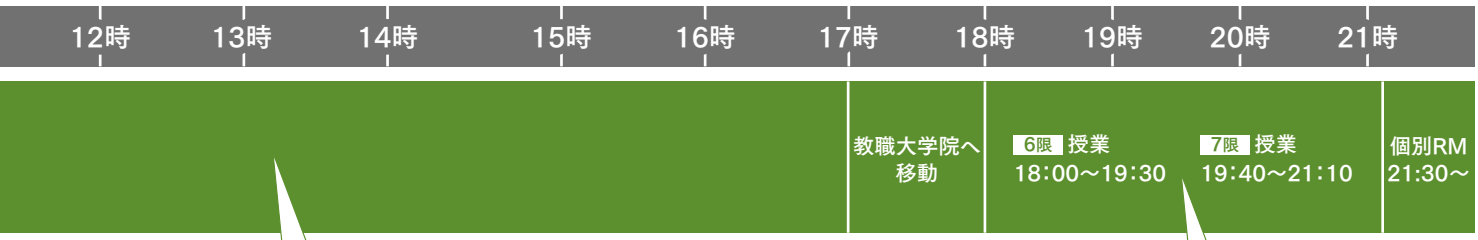
曜日	6限	7限
月		教育課程編成の今日的課題
火		スクールリーダーシップの理論と実践
水		生徒指導と教育相談の実践的課題
木		学校経営と学級経営の理論と実践
金		

後期

曜日	6限	7限
月		学習指導の実践的展開
火	グローバル時代の教師	教育研究方法演習
水		カリキュラム・マネジメントの理論と実践
木		
金		

集中講義

授業におけるICT活用の理論と実際	基本学校実習Ⅰ	基本学校実習Ⅱ



日中はクラス担任として、授業を行ったり、休み時間は子供たちと遊んだりし、普段と変わることなく仕事をしています。

通常の授業以外では、校内の今年度の研究テーマであり、私の教職大学院での学修課題でもあるプログラミング教育について、研究部長として校内の研究を進めています。教職大学院に通っていることにより、授業を通して様々な気付きがあったり、助言をいただいたりすることにより、広い視野をもち、国の動向を考慮しながら先進的な研究を進めることができています。また、質問紙調査などの研究方法や理論についても教職大学院の先生方にご助言をいただいています。

小学校での勤務を終えると、軽食をとり、週に3度ほど6限か7限の授業に間に合うように教職大学院へ向かいます。

学校外の活動としても、教職大学院の先生方にご協力いただき、企業とも連携した実践研究を行い、学会発表等をしています。その際には、自身の実践の効果を学術的に実証するための研究方法など、教職大学院で得られるご指導や学びが役立っています。

この日の 6限は、「カリキュラム・ マネジメントの理論と実践」。7限は、「教育研究方法演習」です。「カリキュラム・ マネジメントの理論と実践」では、勤務校の実態を踏まえ実践できると考えたカリキュラム案について、グループで意見を交流します。様々な学校や校種の先生方の意見を聞くことにより、ブラッシュアップされ、現場でも実践可能なカリキュラムになりました。「教育研究方法演習」では、研究を行う際のデータ分析について学びます。得た情報を基に、どのような分析を行うのが妥当かをグループで考えまとめ、発表しました。

大学院の授業で課される課題や、予習・ 復習は、授業後に大学院で行ったり、授業がない日に自宅で行ったりします。

また、指導教員とは、火曜日の 7限終了後に、個別 RMを行っています。RMでは自分の研究していることについて報告や相談をしたり、学会情報についてレクチャーを受けたりしています。2020年 3月 1日には、日本教育工学会2020年春季全国大会で発表を行いました。社会情勢も考慮し、オンラインでの発表になりましたが、非常に貴重な経験になりました。学会で得られる助言は、現場では得ることのできない情報ばかりで、たいへんありがたいです。

この1年間で、現場とはまた違ったワクワク・ドキドキ感を得ることができました。時間や仕事面で、現場との両立が少々困難な時もありましたが、それ以上に達成感が勝り本当に幸せな1年間でした。教職大学院での学びをまとめる2年目に向けて、大きく成長することができています。

2回生

前期

曜日	6限	7限
月		社会的包摂のための諸施設に関する実践的探究
火		
水		
木	メディア・情報リテラシー教育の実践的展開	子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開
金		実践課題研究Ⅰ(時間は指導教員と相談可能)

後期

曜日	6限	7限
月		
火		学校安全と危機管理
水		メディア・情報教育の企画・運営
木		教師力と学校力
金		実践課題研究Ⅱ(時間は指導教員と相談可能)

集中講義

エビデンスベースの学校改革	発展課題実習Ⅰ(3単位)	発展課題実習Ⅱ(3単位)

科目区分		修了要件に必要な単位数
研究科共通科目	必修	16
	選択必修	2
学校実習科目		10
コース科目	必修	4
	選択必修	6
自由選択科目		4
課題研究科目		4
計		46

※修了要件に必要な単位数は選択したコースにより、若干の違いがあります。
※各科目の単位は、発展課題実習Ⅰ・Ⅱ(各3単位)を除き、1科目2単位。

教職大学院生の一日

教育実践力コース

	8時	9時	10時	11時
授業曜日		1限 8:50〜10:20 「学校経営と学級経営の理論と実践」	2限 10:35〜12:05	
実習日	実習開始 8:00			

学修課題

小学校英語科における異文化理解を深める教材の開発

教育実践力コース 言語と文化領域 2回生

首藤 紗果さんの場合

学部卒院生(本学教育学部2019.3卒)

第2・第3ターム では、週に2回学校実習があります。私は附属平野小学校で実習を行っています。火曜日・金曜日が基本的な実習日とされていますが、実習校や指導教員と相談の上、各自で設定することができます。私は、実習校で外国語(英語)の授業がある曜日に合わせて実習日を設定しようと考え、後期については教職大学院で受講する授業を調整しました。

教職大学院2年間を通して行う研究の足掛かりとして、第2ターム の実習では観察を中心に行い、実習クラスや学校全体・自身の研究課題に関わる小学校英語の様子を知ることで、児童の実態や英語教育の現状把握につとめました。第3ターム では、第2ターム に引き続きクラスに関わりながら、英語の授業を観察・補助しました。更に、自分の研究テーマをもとにした英語の授業を実践できる機会もありました。これらのことから、実践課題研究への具体的な見通しを持てるようになりました。

時間割例

※令和2年度入学生の場合

授業時間	
1限	8:50〜10:20
2限	10:35〜12:05
3限	12:55〜14:25
4限	14:40〜16:10
5限	16:25〜17:55

1回生

前期第1ターム(4月〜6月上旬)

	1限	2限	3限	4限	5限
月		※1(学部授業の履修)多文化共生の社会をめざして	指導教員による指導(個別RM)	学習指導の実践的展開	
火	特別ニーズ教育の理論と実践				
水	教育課程編成の今日的課題				
木			※1(学部授業の履修)オーラル・コミュニケーション上級I	教育実践の研究方法	
金	教材題材開発研究(言語と文化)B 英語教育とICT				

前期第2ターム(6月上旬〜8月上旬)

	1限	2限	3限	4限	5限
月		※1(学部授業の履修)多文化共生の社会をめざして	指導教員による指導(個別RM)		
火	基本学校実習I(授業のない曜日を利用して、前期60時間以上の実施)				
水					
木	学校経営と学級経営の理論と実践		※1(学部授業の履修)オーラル・コミュニケーション上級I	生徒指導と教育相談の実践的課題	
金	基本学校実習I(授業のない曜日を利用して、前期60時間以上の実施)				

集中講義(夏期期間) ※1(学部授業の履修)海外文化研究(海外実習含む)

2回生

前期第1ターム(4月〜6月上旬)

	1限	2限	3限	4限	5限
月					
火	発展課題実習I(授業のない曜日を利用して、前期90時間以上の実施)				
水	学校安全と危機管理			実践課題研究I	
木			人権教育の課題と実践		協働的プロジェクト演習①
金		授業研究演習(言語と文化)B[英語]			

前期第2ターム(6月上旬〜8月上旬)

	1限	2限	3限	4限	5限
月		教材題材開発研究(言語と文化)B[小学校英語]			
火	発展課題実習I(授業のない曜日を利用して、前期90時間以上の実施)				
水				実践課題研究I	
木					
金	発展課題実習I(授業のない曜日を利用して、前期90時間以上の実施)				

上記の時間割モデルは2019年度入学生用カリキュラムによる一例であり、入学後にこのような時間割になることを約束するものではありません。

12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時
	空き時間	3限 12:55〜14:25 「オーラルコミュニケーション上級Ⅰ」 **(学部の授業を受講)**	4限 14:40〜16:10 「教育実践の研究方法[言語と文化]」	5限 16:25〜17:55					
			実習終了16:30						

講義以外の空き時間の過ごし方を少し紹介します。

私は、学生有志として、大阪教育大学グローバルセンターの異文化理解の授業づくりプロジェクトに参加しています。空きコマや昼休みに、他の学生や留学生と集まってミーティングを行い、子どもたちが異文化に触れ、興味を持つきっかけづくりができるような授業を考えています。構想した授業は、実際に柏原市内の小学校で「総合的な学習の時間」をお借りし、授業を実施しています。

他には、学部時代からメンバーとして活動している震災復興コンサートの企画運営にも携わっています。

このように、将来教員になる際、生かすことができるような活動にも少しずつチャレンジしながら、日々を過ごしています。

「教育実践の研究方法[言語と文化]」という授業では、専門教科の新学習指導要領の変更点をおさらいした後、授業分析の視点を学び、小学校・中学校・高等学校の授業を分析して先生方や学生と意見交換しました。また、自身の研究テーマを盛り込んだ授業案を構想し、発表も行いました。このような領域別の授業では、国語教育と英語教育の学生が一緒に学びます。教科は異なりますが、同じ言語に関する科目という面では共通点もあるので、授業内の意見交換では得るものが多いです。私は小学校の教員をめざしていますが、この授業では小中高の英語教育について触れられたので、小中連携などの必要性にも目を向ける良い機会となりました。

教職大学院の授業は、実際に教師になった時使えるような理論と実践を学んだり、教材を開発したりと、学部の授業よりも一歩二歩踏み込んだものが多いと感じます。

また、教職大学院では、院での学修活動に支障のない範囲で、学部の授業を履修することも可能です。私は英語教育に携わっていく人間として、英語の運用能力も向上しておきたいと考え、英語のコミュニケーションに関する学部授業を履修しました。

後期第3ターム(10月〜12月上旬)

	1限	2限	3限	4限	5限
月	教育研究方法演習		カリキュラムデザイン演習(言語と文化)B	指導教員による指導(個別RM)	カリキュラムデザイン演習(言語と文化)B
火	基本学校実習Ⅱ(授業のない曜日を利用して、前期60時間以上の実施)				
水	基本学校実習Ⅱ(授業のない曜日を利用して、前期60時間以上の実施)				
木					
金					

後期第4ターム(12月上旬〜2月上旬)

	1限	2限	3限	4限	5限
月				指導教員による指導(個別RM)	教材題材開発研究(言語と文化)B リスニング・リーディング
火					
水					
木			カリキュラム・マネジメントの理論と実践		
金					

科目区分		当コースにおける修了要件に必要な単位数
研究科共通科目	必修	16
	選択必修	2
学校実習科目		10
コース科目	必修	4
	選択必修	6
自由選択科目		4
課題研究科目		4
計		46

後期第3ターム(10月〜12月上旬)

	1限	2限	3限	4限	5限
月	発展課題実習Ⅱ(授業のない曜日を利用して、後期90時間以上の実施)				
火	発展課題実習Ⅱ(授業のない曜日を利用して、後期90時間以上の実施)				
水		カリキュラム・マネジメントの展開[言語と文化]		実践課題研究Ⅱ	
木	教師力と学校力				
金	発展課題実習Ⅱ(授業のない曜日を利用して、後期90時間以上の実施)				

後期第4ターム(12月上旬〜2月上旬)

	1限	2限	3限	4限	5限
月					
火		教材・題材開発研究(言語と文化)B [英文法・英作文]			
水				実践課題研究Ⅱ	
木					
金					

※1　学部授業の履修は、修業補完(専門知識向上のための基礎的知識習得等のため)自らの意志で履修申請をする任意のもの。教職大学院の修了要件に含まれない。

研究科共通科目

科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称
教育課程の編成及び実施に関する領域	教育課程編成の今日的課題	現代的教育科目	教育研究方法演習
	カリキュラム・マネジメントの理論と実践		学校安全と危機管理
教科等の実践的な指導法に関する領域	学習指導の実践的展開		人権教育の課題と実践
			健康教育の理解と実践
生徒指導及び教育相談に関する領域	生徒指導と教育相談の実践的課題		子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践
学級経営及び学校経営に関する領域	学校経営と学級経営の理論と実践		社会的包摂のための諸施設に関する実践的探究
			特別ニーズ教育の理論と実践
学校教育と教員の在り方に関する領域	教師力と学校力		海外の学校改革に学ぶ

学校実習科目

授業科目の名称			
基本学校実習Ⅰ	基本学校実習Ⅲ(特別支援)	発展課題実習Ⅰ	発展課題実習Ⅲ(特別支援)
基本学校実習Ⅱ	基本学校実習Ⅳ(特別支援)	発展課題実習Ⅱ	発展課題実習Ⅳ(特別支援)

スクールリーダーシップコース科目

科目区分		授業科目の名称		
コース共通科目		スクールリーダーシップの理論と実践	エビデンスベースの学校改革	
プログラム科目	管理職プログラム	スクールリーダーのマネジメント	グローバルスクールプログラム	グローバル時代の教師
		学校組織開発		グローバルリテラシーの育成
		チーム学校の実践的展開		グローバルプログラムの開発
	実践的リーダープログラム	学校におけるコーディネーション	メディア・情報リテラシー教育プログラム	授業におけるICT活用の理論と実際
		子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開		メディア・情報リテラシー教育の実践的展開
		校内研修の持続的発展		メディア・情報教育の企画・運営
	教育委員会指導主事プログラム	学校に対するコンサルテーション		
		行政研修の体系と実践		
		学校支援のための施策展開		

援助ニーズ教育実践コース科目

科目区分		授業科目の名称		
コース共通科目		協働的援助の理論と実践	児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ	
		社会環境と子どもの心身の理解		
プログラム科目	いじめ・不登校・問題行動対応プログラム	いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ	養護プログラム	養護実践の理論と方法
		学校危機における援助ニーズ		子どもの疾病・傷害と援助ニーズ
		予防的な関わりと協働的援助		子どもの心身の健康における予防的な関わりと協働的援助
	子どもの障がい・健康課題対応プログラム	障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ	就学前教育プログラム	就学前の子どもの援助のための政策・システム
		メンタルヘルス課題の理解		就学前の援助ニーズへの多様な支援
		共生社会をめざした協働的援助		就学前教育と福祉の協働

天王寺キャンパス開講　教科関係科目

授業科目の名称	
学習開発研究　[国語]/[算数]/[音楽]/[図画工作]/[体育]	教科内容開発研究　[英語]/[社会]/[理科Ⅰ]/[理科Ⅱ]/[理科Ⅲ]/[音楽]
学習開発研究演習　[国語]/[英語]/[算数]/[音楽]/[図画工作]/[体育]	教科内容開発研究演習　[英語]/[社会]/[理科Ⅰ]/[理科Ⅱ]/[理科Ⅲ]/[音楽]

教育実践力コース科目

科目区分		授業科目の名称		
コース共通科目		教育実践の研究方法	Eラーニング	特別活動の展開
		協働的プロジェクト演習	国際教育比較実践交流	道徳教育の教材開発演習
		カリキュラム・マネジメントの展開	総合的学習の開発と実践	海外他地域教育実践演習　Ⅰ・Ⅱ
選択必修科目	A群	カリキュラムデザイン演習（言語と文化）A・B	カリキュラムデザイン演習（科学と数学）A・B・C	
		カリキュラムデザイン演習（個人と社会）A・B	カリキュラムデザイン演習（身体と表現）A・B-a・B-b・C	
	B群	授業研究演習（言語と文化）A［国語］/B［英語］		
		授業研究演習（個人と社会）A［家庭科］/B［社会a］/B［社会b］/C［道徳］		
		授業研究演習（科学と数学）A［理科］/B［技術］/C［算数・数学］		
		授業研究演習（身体と表現）A［音楽］/B［図画工作・美術］/B［書道］/C［体育・保健体育］		
	C群	教材・題材開発研究（言語と文化）A　［音声言語表現］/［文字言語表現］/［古典文学］/［児童文学］		
		教材・題材開発研究（言語と文化）B　［英語教育とICT］/［英文法・英作文］/［小学校英語］/［リスニング・リーディング］		
		教材・題材開発研究（個人と社会）A　［食育］/［食と健康］/［家族と保育］/［被服と生活］/［消費生活と環境］		
		教材・題材開発研究（個人と社会）B　［いのち教育］/［哲学］/［倫理］/［社会学a］/［社会学b］/［法と社会］/［歴史a］/［歴史b］/［防災安全］/［地誌］/［地図］		
		教材・題材開発研究（個人と社会）C　［道徳a］/［道徳b］		
		教材・題材開発研究（科学と数学）A　［物理］/［化学］/［生物］/［地学］		
		教材・題材開発研究（科学と数学）B　［木材加工］/［金属加工］/［電気］/［情報］/［栽培］/［技術統合］		
		教材・題材開発研究（科学と数学）C　［代数］/［幾何］/［解析］/［確率］/［応用数学］/［数学教育］		
		教材・題材開発研究（身体と表現）A　［作曲］/［指揮］/［声楽］/［合唱］		
		教材・題材開発研究（身体と表現）B　［美術鑑賞］/［書鑑賞］/［芸術と異文化交流1］/［芸術と異文化交流2］/［映像・メディア教育］/［デザイン］/［工芸］		
		教材・題材開発研究（身体と表現）C　［剣道］/［柔道］/［球技］/［器械運動］/［保健学習］/［健康・体力］/［体育基礎論］		
		教科内容研究（科学と数学）B　［木材加工］/［金属加工］/［電気］/［情報］/［栽培］		
		教科内容研究（科学と数学）C　［代数］/［幾何］/［解析］/［確率］/［応用数学］/［数学教育］		
高度理数教育科目		教科内容研究（科学と数学）A　［実験物理］/［有機化学］/［植物進化］/［動物系統］/［動物発生］/［気象］/［天文］/［地質］		
		教科内容研究（科学と数学）B　［木材加工］/［金属加工］/［電気］/［情報］/［栽培］		
		教科内容研究（科学と数学）C　［代数］/［幾何］/［解析］/［確率］/［応用数学］/［数学教育］		

特別支援教育コース科目

授業科目の名称		
インクルーシブ教育の理論と実際	特別なニーズのある子どもの臨床	特別支援教育の教育課程と授業論
特別支援教育コーディネーター論	発達障がいのある子どもの理解と支援	教育相談支援の理論と実際
特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援	特別支援教育の現代的課題	
特別なニーズのある子どもの生理と病理	発達支援教育実践論	

課題研究科目

授業科目の名称
実践課題研究Ⅰ
実践課題研究Ⅱ

スクールリーダーシップコース

指導分野／氏　名	指導分野／氏　名	指導分野／氏　名	指導分野／氏　名
学校心理学、生徒指導、教育相談 家近　早苗	教育工学 森田　英嗣	音楽教育 大木　愛一	英語教育 生馬　裕子
小中連携の英語教育、グローバル教育 柏木賀津子	教師教育、学校経営、グローバル教育 田中満公子	国語教育 田中　俊弥	体育・保健体育科教育 橋元　真央
教育方法学、教師教育 木原　俊行	教師教育、生徒指導、学級づくり 餅木　哲郎	理科教育（物理） 種村　雅子	算数・数学教育 冨永　雅
教育方法学 （カリキュラム・マネジメントなど）、 教師教育、学校経営 田村　知子	教師教育 長谷川和弘	理科教育（生物） 出野　卓也	幼児造形・図画工作教育 松井　祐
教育工学、教師教育、メディア教育 寺嶋　浩介	教師教育、人権教育、学校安全 佐々木　靖	理科教育（地学） 廣木　義久	音楽教育 吉野　秀幸
	教師教育、学習指導、国語教育 野中　拓夫	社会科教育（経済） 裴　光雄	

援助ニーズ教育実践コース

指導分野／氏　名	指導分野／氏　名	指導分野／氏　名	指導分野／氏　名
学校心理学、カウンセリング心理学 水野　治久	教育相談 柿　慶子	学習心理学、認知心理学 渡邉　創太	教師教育、就学前教育 小池　美里(※)
養護学、学校心理学、健康教育学 平井　美幸	特別支援教育、応用行動分析学、 教育相談 梅川　康治	応用行動分析学、 ポジティブ行動支援、発達障がい支援 野田　航	養護教育（臨床医科学） 平田久美子
特別支援教育、応用行動分析学、 ポジティブ行動支援 庭山　和貴	発達心理学、教育心理学 高橋　登	就学前教育、教育心理学 戸田　有一	養護教育（学校保健学） 大道乃里江
教師教育、 特別なニーズのある 児童生徒への支援 岡田　和子	小松　孝至	就学前教育 中橋　美穂	養護教育（学校看護） 橋弥あかね
	学校臨床心理学 牧　郁子	音楽表現、ピアノ演奏法、伴奏法 加藤あや子	養護教育（予防医学） 阪本　尚正

※ 副指導教員予定者

教育実践力コース

領域	指導分野／氏　名	領域	指導分野／氏　名	領域	指導分野／氏　名	指導分野／氏　名
教育・心理	教育学（教育哲学） 瀬戸口昌也	言語と文化	国語教育（教科教育） 小路口真理美	個人と社会	家庭科教育（教科教育） 大本久美子	教師教育、社会科教育、 広領域 糸井川孝之
	教育学（教育方法学） 佐藤雄一郎		住田　勝		家庭科教育 （教科教育、生活経営）、 広領域 鈴木真由子	社会科教育（歴史） 櫻澤　誠
	八田　幸恵		松岡　礼子		家庭科教育（食物） 井奥　加奈	井上　岳彦
	福田　敦志		国語教育（教科教育）、 広領域 土山　和久		中田　忍	社会科教育（法学） 西村　貴裕
	吉田　茂孝		国語教育（国語学） 井上　博文		家庭科教育（被服） 山田由佳子	社会科教育（社会学） 串田　秀也
	教育学（教育社会学） 高橋　一郎		清田　朗裕		家庭科教育（保育） 小崎　恭弘	社会科教育 （社会学、地域研究） 小林　和美
	教育学（学校経営学） 臼井　智美		野浪　正隆		教師教育、家庭科教育 （教科教育）、広領域 松永　尚子	社会科教育 （哲学、いのち教育） 岩田　文昭
	田中　真秀		国語教育（古典文学） 堀　淳一		社会科教育（教科教育） 飯島　敏文	社会科教育（哲学） 松本啓二朗
	心理学（発達心理学） 白井　利明		国語教育 （近現代文学、児童文学） 成實　朋子		手取　義宏	社会科教育（倫理学） 倉本　香
	心理学（行動分析） 大河内浩人		英語教育（教科教育） 加賀田哲也		西裏　慎司	道徳教育 金光　靖樹
	心理学（学校臨床心理学） 上田　裕美		箱﨑　雄子		社会科教育（教科教育）、 広領域 峯　明秀	小林　将太
			英語教育（英語学） 寺田　寛		社会科教育（地理） 水野　惠司	
			英語教育 （リーディング・リスニング） 橋本　健一		社会科教育（自然地理） 山田　周二	
					社会科教育（人文地理） 山近　博義	

教育実践力コース

領域	指導分野／氏　名
科学と数学	理科教育（教科教育）、環境教育・ESD、広領域 石川　聡子
	理科教育（教科教育）、広領域 岡　博昭
	理科教育（物理） 鈴木　康文
	深澤　優子
	理科教育（化学） 神鳥　和彦
	種田　将嗣
	理科教育（生物） 生田　享介
	岡崎　純子
	理科教育（地学（天文）） 松本　桂
	理科教育（地学） 吉本　直弘
	教師教育、理科教育、広領域 井上　広文(※)
	廣瀬　明浩(※)
	堀川　理介(※)
	技術教育（教科教育、木材加工） 永冨　一之
	技術教育（教科教育、情報） 光永　法明

領域	指導分野／氏　名
科学と数学	技術教育（電気） 篠澤　一彦
	技術教育（金属加工） 成田　一人
	技術教育（教科教育） 吉岡　利浩
	算数・数学教育（教科教育） 柳本　朋子
	算数・数学教育（教科教育、応用数学） 瀬尾　祐貴
	算数・数学教育（解析学） 岡安　類
	算数・数学教育（確率論） 貞末　岳
	算数・数学教育（代数学） 馬場　良始
	教師教育、算数教育、広領域 小川　隆正(※)
	教師教育、数学教育、広領域 田中　伸治(※)
	吉川　年幸(※)

領域	指導分野／氏　名
身体と表現	音楽教育（教科教育） 兼平　佳枝
	音楽教育（教科教育）、広領域 田中　龍三
	教師教育、音楽教育（教科教育）、広領域 澤田　和夫
	音楽教育（声楽） 寺尾　正
	音楽教育（作曲） 猿谷　紀郎
	図画工作・美術教育（教科教育） 新井　馨
	図画工作・美術教育（教科教育）、広領域 佐藤　賢司
	図画工作・美術教育（教科教育、絵画） 渡邉　美香
	図画工作・美術教育（彫刻） 加藤可奈衛
	図画工作・美術教育（デザイン） 青木　宏子
	図画工作・美術教育（工芸） 谷村さくら
	図画工作・美術教育（造形芸術） 髙間由香里

指導分野／氏　名
書道教育（書道） 池田　利広
瀬川　賢一
出野　文莉
体育・保健体育科教育（教科教育） 赤松　喜久
体育・保健体育科教育（教科教育）、広領域 井上　功一
体育・保健体育科教育（体育学、剣道） 太田　順康
体育・保健体育科教育（体育哲学） 林　洋輔
体育・保健体育科教育（運動学、柔道） 石川　美久
体育・保健体育科教育（運動学、器械運動） 古和　悟
体育・保健体育科教育（体育生理学） 鉄口　宗弘
体育・保健体育科教育（学校保健学） 小川　剛司

特別支援教育コース

指導分野／氏　名	指導分野／氏　名	指導分野／氏　名	指導分野／氏　名	指導分野／氏　名
障がい児心理（視覚障がい） 山本　利和	障がい児教育（病弱） 冨永　光昭	障がい児心理（聴覚障がい、発達障がい） 西山　健	障がい児教育（肢体不自由） 須田　正信	障がい児教育（知的障がい） 今枝　史雄
障がい児教育（聴覚障がい） 井坂　行男	障がい児教育（聴覚障がい） 湯浅　哲也	障がい児心理（病弱） 平賀健太郎	障がい児臨床（肢体不自由） 大内田　裕	教師教育、障がい児教育、広領域 岩﨑　弘(※)

※ 副指導教員予定者

◆科目等履修生制度

正規の院生の他に、連合教職大学院の正規の授業を聴講して単位を修得する制度です。1年間に8単位まで履修することができます。教員免許状の取得に必要な科目の履修や特定のテーマについて専門的に学びたい場合にご利用ください。また、本制度により修得した単位は、正規院生として入学した際、既修得単位として認められます。

◆履修証明プログラム

「履修証明プログラム」とは、社会人等の学生以外の者を対象とした教育プログラムで、修了者には学校教育法の規定に基づく履修証明書が交付されます。

連合教職大学院では、学校現場のニーズや教育課題に対応し、これからのスクールリーダーとして求められる資質や力量を強化することを目的として、当研究科が開設する授業科目により履修証明プログラムを編成・開設しております。

履修証明プログラムの履修生として入学が許可されると、科目等履修生としての身分を有することになり、修得した単位は科目等履修生として修得したものとして取扱います。

◆授業公開

連合教職大学院では、年間を通じて授業を公開しています。連合教職大学院での学びをぜひ一度体験してしてください。

また、授業公開後に、教員・現役院生・事務担当者が、皆様の疑問にお答えする機会として、「授業公開強化WEEK」を開催予定です。

詳細は連合教職大学院HPにてご確認ください。

就職支援

キャリア支援センターによる教員採用試験の充実したサポート体制を整えています。

Support 1　筆記試験対策講座

筆記試験対策講座を講義形式で実施

Support 2　面接試験対策講座

面接試験に必要なノウハウ・テクニックを身に付けることが可能

Support 3　教育委員会による採用説明会

各教育委員会関係者が大学で採用説明会を実施
試験の詳細や変更点を聞くことが可能

Support 4　私立学校教員採用説明会

私立学校人事担当者が本学で説明会を実施
各学校の採用予定や特色を聞くことが可能

Support 5　実技・面接対策講座

水泳・音楽・器械運動など実技試験、集団討論・面接、模擬授業・場面指導の対策講座を実施

Support 6　専門アドバイザーによる相談

専門アドバイザーによる教員採用試験相談を実施

進路状況

本連合教職大学院では、令和２年３月には４期生が修了し、通算の修了者数は 140 人（うち学部卒院生 74 人）となりました。平成 29 年度は 94％、平成 30 年度は 95％、令和元年度は 96％など、これまで教員採用に高い実績（講師含む）を挙げてきました。

平成 28 年度修了者（学部卒院生 15 人）の実績

平成 29 年度修了者（学部卒院生 16 人）の実績

平成 30 年度修了者（学部卒院生 20 人）の実績（平成 31 年３月修了時の進路調査より）

令和元年度修了者（学部卒院生 23 人）の実績

教員採用試験の採用候補者名簿掲載期間の延長について（大阪市・堺市）

大阪市の教員採用試験で校種「小学校」及び「中学校」の第2次選考で合格と判定された人が、教職大学院に進（在）学し、教職大学院の専門職学位課程修了後の採用を希望する場合は、採用候補者名簿掲載期間を最長2年間延長することができます。
堺市の教員採用試験でも同様の制度があります。
※詳細については、大阪市あるいは堺市の教員採用試験の要項をご確認ください。

学費・奨学金

入学料・授業料

令和２年度入学	入学料	授業料（年額）
大学院	282,000円	535,800円
大学院（長期履修学生制度の適用者）	282,000円	357,200円

上記金額は、令和２年度入学者の金額であり、令和３年度入学者については、変更される場合があります。

長期履修学生制度

標準修業年限（２年）で修了することが困難な方を対象に、修業年限を延長することにより計画的に教育課程を履修することができ、かつ、その間の授業料の年額の負担を軽減することができます。

長期履修学生としての申請に基づき審査を行い、許可された場合修業年限を３年とします。修学状況等の変動により、標準修業年限への短縮や、入学後（在学中）の長期履修の申請も可能ですが、この場合、1年次の所定期日までに申請を行い、翌年度からの適用となります。
なお、本制度が適用された方は、留学など長期にわたって本学大学院を離れた場所での修学ができない場合があります。

〈申請資格〉

申請資格を有する方は、次のいずれかに該当する方です。

① 職業を有する方
② 育児、介護等の事情を有する方
③ その他研究科長が認めた方

〈授業料（年額）〉

大学が定めた授業料年額 × 標準修業年限（2年） ÷ 最長履修期間（3年）

授業料等免除制度

一　般　選　考	経済的理由により入学料・授業料の納付が困難であり、かつ、成績優秀と認められる方を対象に選考のうえ、入学料・授業料の全額または半額が免除あるいは徴収が猶予されます。
特別入学料免除	本学大学院へ入学する方のうち、公立学校教員採用試験に合格し、かつ教育委員会から採用猶予等を許可された方を対象に選考のうえ、入学料の全額又は半額が免除あるいは徴収が猶予されます。
大学院における特別授業料免除	本学大学院に在学中で、学業成績等が優秀であると認められる方を対象に選考のうえ、授業料の半額が免除あるいは徴収が猶予されます。

奨学金制度

学業成績が優秀で、経済的理由により学資の支弁が困難の方には《日本学生支援機構奨学金》または《一般奨学金》の制度があります。一般奨学金には、大きく分けて地方公共団体の奨学金と民間育英団体の奨学金とがあります。

（参考）令和２年度入学者 日本学生支援機構奨学金の貸与月額例

奨学金の種類	貸与月額
第一種奨学金（無利子）	50,000円・88,000円のいずれかより選択
第二種奨学金（有利子）	50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円のいずれかより選択

上記金額は、令和２年度入学者の金額であり、令和３年度入学者については、変更される可能性があります。

入試情報

令和２年度入試結果

（単位：人）

コース・領域		募集人員（目安）	志願者数	合格者数	入学者数
スクールリーダーシップコース		30	32	32	32
援助ニーズ教育実践コース		30	25	19	16
教育実践力コース	言語と文化	80	11	11	9
	個人と社会		18	16	15
	科学と数学		25	22	18
	身体と表現		12	11	10
	教育・心理		7	4	3
	広　領　域		3	3	3
特別支援教育コース		10	2	2	2
計		150	135	120	108

選抜方法

入学者の選抜は、小論文、口述試験、学修計画書及び成績証明書を総合して行います。

◎教育委員会または連合構成大学（大阪教育大学、関西大学、近畿大学）の推薦による受験者は、課題レポートの提出により小論文の受験を代替することができます。課題レポートの内容については、大学ウェブページにて公表しております。

入学検定料の免除について

教職課程をもつ大学（大阪教育大学、関西大学、近畿大学を除く）の卒業見込者で、出願資格を満たしており、学力成績が優秀で、本学大学院のアドミッション・ポリシーに合致しているとして大学長（又は学部長）に推薦された方には入学検定料を免除します（各学部2名以内）。詳細については、募集要項をご確認ください。

入試関連スケジュール

■ 説明会

全体説明やコース別説明を行い、個別相談（入試、履修、奨学金等）に応じます。
お気軽に参加ください。

令和２年６月20日（土）、令和２年９月26日（土）、令和２年12月13日（日）

※6月は柏原キャンパスで、9月と12月は天王寺キャンパスで開催します。
※詳細は大学ウェブページに掲載します。

■ 入試日程等

	出願期間	入試日	合格発表
１次募集	令和２年　７月27日（月）～　８月６日（木）	令和２年　９月　５日（土）	令和２年９月11日（金）
２次募集	令和２年10月26日（月）～11月５日（木）	令和２年11月29日（日）	令和２年12月４日（金）
３次募集	令和２年12月24日（木）～令和３年１月７日（木）	令和３年　１月31日（日）	令和３年２月５日（金）

※上記入学試験で定員に満たない場合は４次募集［令和３年３月６日（土）］を実施する場合があります。

三つのポリシー

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

所定の単位を修得し、教職に関する実践的知識・技能を拡充するための省察や教育実践研究の方法論、同僚や他の教育関係者との協力や協働、学校における組織的活動の視点と方法を獲得するとともに、学校教育の制度や仕組み、教育課程、授業や教材、子どもの心理や発達と生活及びその多様性等に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に有すると認められた者に学位を授与します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

学校教育の全体像を俯瞰できるような幅広い実践力や課題解決力や応用力を培い、教職に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に養成するため、カリキュラムは以下の科目で編成・実施します。

①高度な専門性を有する教員を養成するための基礎的素養を修得する研究科共通科目

②変化する教育環境に対応するために、様々な教育のあり方を俯瞰的な視点で把握するための体験的基盤を確立する学校実習科目

③各コースの特徴を踏まえ、その特徴を伸ばすことを目的とするコース科目

④自ら学校実践の現場における課題を設定し、研究科共通科目、コース科目、学校実習科目での学びと関連させながら学びを進め、最終的に実践課題研究報告書にまとめることを目的とする課題研究科目

①及び③の実施については、主体的・対話的で深い学びを提供する。具体的には、講義に加えて、グループワーク、発表、討論等の活動を取り入れる。さらに、必要に応じて、教職経験を活かした活動を導入する。②及び④に関しては、調査・計画・実施・評価及び改善のサイクルを繰り返すこと、それらの過程における同僚等 とのコミュニケーションや協働を重視する。

また、成績評価については、試験・レポートのほか、グループワーク、発表、討論等の活動も重視する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

1. 基本理念・目標

大学院連合教職実践研究科は、教育委員会や学校現場との密接な連携の下での教員養成や現職教員教育を通じて、教員志望学生や現職教員学生に学校現場での課題に即応できる実践的知識・技能を拡充させるための視点と方法を獲得させ、もって学校における高度の専門的な能力及び優れた資質を有する専門職としての人材の育成をめざしています。

2. 求める学生像

・学校や地域が抱える教育課題の解決において指導的・中核的な役割を果たすために求められる高度で優れた実践力の獲得をめざす現職教員及び教育委員会関係者

・新しい学校づくりの担い手として自ら学び続けることで実践的指導力の獲得をめざす人

3. 入学者選抜の基本方針

基本理念・目標等にふさわしい学生を受け入れるために、次の大学院入学者選抜を実施します。大学院入学者選抜では、「小論文」・「口述試験」・「学修計画書」を課します。

・「小論文」では、教職に必要とされる読解力、思考力、文章表現力を特に評価します。

・「口述試験」において

学部卒学生等では、教員として学び続ける意欲、教職に関わる実践的な知識・技法、大学院での学修計画を特に評価します。

現職教員等では、教員として学び続ける意欲を持ち、自らの教員としてのキャリアと学修計画を関連づける思考力、判断力、表現力を特に評価します。

・「学修計画書」において

学部卒学生等では、学部での学修を踏まえ、教員として自らが身につけるべき資質・能力を明確にし、それを学校等における教育課題と関連づけた具体的な学修計画を特に評価します。

現職教員等では、所属する組織の課題を把握し、その解決のために教員として自らが高めるべき資質・能力を明確にしている学修計画を特に評価します。

4. 入学前に学習しておくことが期待される内容

（学部卒学生等）・大学卒業レベルと同等の基礎学力

・教職への基本的な知識・技能

（現職教員等）・教育全体や所属する組織の課題を理解し、課題解決をする力

・組織の一員として協働して取り組む力

・子ども一人ひとりを理解し、授業づくり、集団づくりを指導する力

Access

※このアクセスマップはすべての路線が記載されているものではありません。

柏原キャンパス

※下図では乗り換えに要する時間は記載していません。

- 新大阪 —4分（大阪方面）— JR大阪 —16分（JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面）
- 三ノ宮 —24分（JR神戸線新快速 大阪方面）— JR大阪 —16分（JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面）
- 神戸三宮 —48分（阪神本線快速急行）
- JR京都 —28分（JR京都線新快速 大阪・神戸方面）— JR大阪 —16分（JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面）
- 丹波橋 —33分（京阪本線特急 淀屋橋方面）— 京橋 —7分（JR大阪環状線外回り 鶴橋・天王寺方面）
- 大阪難波 —5分（近鉄奈良線 大和西大寺方面）
- 岸和田 —28分（南海線急行 なんば方面）— 新今宮 —8分（JR大阪環状線内回り 天王寺・鶴橋方面）
- 関西空港（鉄道） —33分（JR特急はるか）— 天王寺 —8分（JR大阪環状線内回り 鶴橋・京橋方面）
- 和歌山 —75分（JR直通快速 天王寺行き）— 天王寺 —8分（JR大阪環状線内回り 鶴橋・京橋方面）

鶴橋 —17分（近鉄大阪線急行）— 河内国分 —1分（近鉄大阪線準急）— 大阪教育大前 —約15分（徒歩（約1km）大教大名物のエスカレーターがあります。）— 柏原キャンパス

- JR奈良 —16分（JR大和路線快速 大阪方面）— 王寺 —12分（JR大和路線 難波方面）— 柏原 —約7分（徒歩（550m））— 堅下 —7分（近鉄大阪線区間準急 名張方面）— 大阪教育大前 —約5分（近鉄バス）— 柏原キャンパス

- 大和西大寺 —22分（近鉄橿原線急行 橿原神宮前方面）
- 近鉄名古屋 —116分（近鉄名古屋線特急 大阪難波方面）
- 津 —14分（近鉄名古屋線 伊勢中川方面）— 伊勢中川 —73分（近鉄大阪線快速急行 大阪上本町方面）

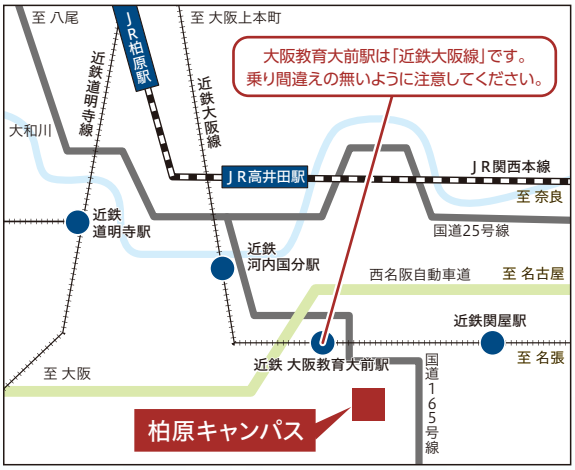
近鉄大和八木 —7分（近鉄大阪線急行 大阪上本町方面）— 五位堂 —10分（近鉄大阪線準急 大阪上本町方面）— 大阪教育大前 —約5分（徒歩（350m））— 柏原キャンパス

意外と近いかも！

キャンパスまでのルートを最寄りの駅から調べてください。

大阪上本町駅から
大阪教育大前駅まで近鉄電車で**23**分

JR大阪環状線鶴橋駅から
大阪教育大前駅までなら**19**分



天王寺キャンパス

※下図では乗り換えに要する時間は記載していません。

- 大阪教育大前 —1分（近鉄大阪線準急）— 河内国分 —17分（近鉄大阪線急行）— 鶴橋 —4分（JR大阪環状線外回り 天王寺・弁天町方面）
- 大阪 —20分（JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面）
- 京橋 —12分（JR大阪環状線外回り 鶴橋・天王寺方面）

寺田町 —約5分（徒歩（約350m））— 天王寺キャンパス

- JR奈良 —35分（JR大和路快速 大阪方面）
- 神戸三宮 —31分（阪神本線快速急行 近鉄奈良方面）— 西九条 —16分（JR大阪環状線内回り 弁天町・天王寺方面）

天王寺 —約10分（徒歩（約600m））— 天王寺キャンパス

大阪市内中心地　天王寺駅から約600m（寺田町駅から350m）

国立大学法人
大阪教育大学

https://osaka-kyoiku.ac.jp/

学務部入試課
〒582-8582　大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
TEL 072-978-3323

連合教職大学院の
紹介動画はコチラ